

# 会 議 録

## 1 会議名

令和元年度 第2回上越市青少年健全育成センター運営協議会

## 2 議事（公開・非公開の別）

- (1) 青少年健全育成センター事業の進捗状況（4月～9月）（公開）
- (2) 若者支援事業の進捗状況（公開）
- (3) 情報交換（公開）
- (4) その他（公開）

## 3 開催日時

令和元年10月17日（木）午後2時から3時30分まで

## 4 開催場所

上越市教育プラザ 研修棟中会議室

## 5 傍聴人の数

なし

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者の氏名（敬称略）

- ・委員：飯塚 裕、田中 敦、関川正樹、山本条太郎、杉本正彦、古川美也子、  
笠原文臣（小林榮委員代理）、岩片喜代子、鈴木真理子、大堀みき、  
吉岡智宣
- ・事務局：上越市青少年健全育成センター 所長 山崎光隆、 指導員 曾我茂樹

## 8 発言の内容

《 議 事 》

- (1) 青少年健全育成センター事業の進捗状況（4月～9月）（公開）

※事務局より説明（資料 P1～P11）

< 質疑 >

吉岡委員：街頭指導の説明の中に、中学生、高校生が両耳にイヤホンをつけたまま自転車運転しているという話があった。大変危険だと思う。実際の数としてはどれくらいなのか。また、それに関して学校では注意喚起や周知活動

をしているのか。

事務局：実数としてどれくらいなのかはつかんでいない。街頭指導の中では、自転車だけでなく歩きながら両耳にイヤホンをしている高校生の姿を見かける。相当数いることは想像できるが、実数は分からない。7月に高校警察等連絡協議会が開催された際に、高校でもイヤホンをしたままで通行することへの対策を立て指導をしているという話があった。従って、高校でも指導をしてきていることは確かである。なお、これは高校生の様子であり、小・中学生においてはそのような姿を見ることはない。

もう一点、高田駅前のジベタリアンについて。今年の6月くらいから腰をおろして話をしている有職少年、あるいは無職少年が二人ほどいた。さらに、その人たちに声をかけられた高校生が一緒になって話をするという様子も見られ、6月以降それが目立つようになった。このことも7月の会議の際に話題として出された。ちょうど高田駅の駅長さんが出席しており、さらに駅前交番からの情報もあり、みんなで注意していこうという事になった。その結果、現在は少なくなってきたようである。

関川委員：育成委員協議会研修に対する出席率はどれくらいか。また、もしそれが少ないようであれば、どうやって出席率を上げていこうと考えているか。

事務局：第1回研修は総会の後に行う基礎研修なので、ほとんどの育成委員が参加している。第2回、第3回は半数弱である。育成委員の皆さんは他にも様々な役職を兼ねている場合が多いので、忙しくて都合がつかないことがあると考えられる。育成委員協議会だより等で研修の様子を広報することにより、次回の研修への参加を促すようにしている。なお、研修の中でも視察研修については市のマイクロバスを利用する関係で乗車定員があり、20数人程度に限られてしまうという事情がある。また、8月の研修は全員研修として皆さんに参加を呼びかけているが、例年半数程度になっている。今後もぜひ参加したくなるような魅力的な研修を計画していきたいと思う。

## (2) 若者支援事業の進捗状況（公開）

※事務局より説明（資料 P12～P14）

< 質疑 >

小山委員：ユースアドバイザー養成講座は参加者の年齢制限はあるのか。

事務局：特に年齢制限はなく、自由に参加してもらっている。若い方はもちろん、仕事を退職してこれからボランティア活動として若者支援に取り組もうという方もいて、幅広い年齢層になっている。今年の申込では一番若い方が25歳、一番高齢の方が80歳である。一番多い年代層は50代から60代であり、それでほぼ半数を占めている。若い方からも多く参加してもらい、これから先の後継年代を育てるには大変よい状況であると思っている。

岩片委員：Fitを開設して若者が通って来ているということだが、その交通手段はどうしているのか。また、参加するについては費用がかかるのか。もう一点、8月の進路研修に私も参加したが、親子で一緒に参加する姿があり大変よいことだと思った。

事務局：交通手段はすべて保護者による送迎である。また、費用は無料である。学習への取組を支援するなどの内容で毎回2時間程度である。8月の進路研修については、親子で参加する方がさらにふえればよいと思っている。通信制高校など幅広い進路の選択肢があることを知ってもらうために積極的に情報発信をしていきたい。それを一人一人の子どもたちのより良い進路実現につなげていきたいと考えている。

大堀委員：Fitの利用についての年齢制限はあるのか。

事務局：基本的にFitを開始するにあたり、義務教育終了後の15歳から39歳までを念頭においていた。これは、子ども・若者育成支援推進法がその年齢を対象にしているからである。ところが実際に活動を進めている中で、30歳を超えてひきこもりの期間が長くなってくるケースでは我々の力ではなかなか対応しきれない面が見えてきた。そこで現在、対象の中心として考えているのは15歳から20歳代までである。ひきこもりが長期化してしまう前の20歳代の段階で支援をしていきたいと考えている。20歳代以降で、我々が専門的に関われない場合については、すこやかにくらし包括支援センターに相談するなど、他の専門的な機関につなげることを考えている。

大堀委員：実際に30代の方に関わったケースもあったのか。

事務局：現在、アウトリーチで関わっているのは今年30歳になった方である。昨年34歳の方にアウトリーチで就労を支援した。今の所それ以上の方はいない。

飯塚委員：Fitの固定された場所がないということだが、今後の見通しはどうか。また、12ページの相談・面談活動で主な相談内容が不登校7件、ひきこもり1件、その他2件とあるが具体的な相談の内容について分かれば教えてもらいたい。

事務局：Fitについては、来年度常設したいと考えている。決まった部屋で、若者が月～金曜日のいつ来ても使えるという形で対応したいと考えている。今、そのための場所の確保と予算化に向けてお願いをしているところである。次に相談の内容について、不登校7件は高校の不登校である。高校に入ったが通えなくなってきたことに対する相談、あるいは転学をしたいのだが、転学先について情報を教えてもらいたいという相談などである。中には通信制高校に転学したが、そこに通えなくなつて相談に来たケースもある。ひきこもりについては、先ほど話の出たアウトリーチで対応している30歳の方のケースである。その他は、対人関係の悩みについて電話相談を受けている高校生のケースなどである。

杉本委員：Fitに参加している人数は分かったが、実際に15歳以上のひきこもりの人数としてどれくらいいるのか。

事務局：推計も含めて分かる範囲で2つの点からお答えする。まず、今回内閣府が行った全国ひきこもり調査の結果から、40歳～64歳までの間で61万人いることが分かった。また、2017年に行った15歳～39歳までの調査と合わせて合計すると、15歳～64歳までで115万人ということになる。それを上越市の人口にあてはめると15歳～64歳までで約1600人いるであろうということになる。15歳～39歳までは約700人となる。人口割の出現率ではこういう数字になる。これが一つ目の推計値である。もう一つは平成30年度に行政機関がひきこもりの対応に関わった件数である。これは、各行政機関が電話相談や直接の面談、アウトリーチをした件数もすべて含めて合計し、県に報告した数値である。これが上越市全体で165件になる。これに対して、センターで扱っている人数は20人弱とわずかであるが、それでも継続して支援することに大きな意味があるのではないかと考えている。

### (3) 情報交換（公開）

※各委員からの情報提供及び青少年健全育成センター事業についての意見等を求めた。

古川委員（上越市小中学校PTA連絡協議会）：

皆さんのところに、チラシを配布してあるが、これは11月23日に開催する上越市小中学校PTA連絡協議会研究大会の案内である。その中で、リポーターの阿部佑二氏を迎えて「いじめ問題」について話をしてもらう予定である。レポーターとして現場に行ってみ聞きしたことや、今問題になっている教師のいじめについても話をしてもらえるのではないかと思う。一般の方が直接会場に来て入場できるので、ぜひご参加いただきたい。

田中委員（中学校長会）：

今、多くの中学校で困っているのはスマホによるLINE等、SNSを通じた誹謗中傷や仲間外しである。また、ネット上に写真や画像を流してしまうという問題も起こっている。以前から高校ではこういう事が多く発生して苦労しているが、中学校でも同じようなことが起こる時代になってきた。なおかつ小学生のころからスマホを持っている、あるいは親の物を借りて使っているケースが多くなってきている。このままでは学校で情報管理をすることが非常に難しい。親が買い与えた以上、保護者の責任で管理してもらわなければならないと思う。また、こういう問題が起こると学校で何とかしてくれという話になるが、私たちには捜査権が無いので警察にお願いするしかないのが現状である。もちろん中学校では、何もかも警察にお願いするというわけではなく、指導できるとことはきちんと指導をする。しかし、子どもたちが持っている情報はスマホの中に詰め込まれているので、私たちには見ることはできない。この問題が今一番大変で、これからはますます多くなっていくのではないかと思う。さらに、中学校で一番問題視しているのは、小学校で何とかよい人間関係を築こうとして、様々な仲間づくり活動を行ってきたのに、この問題によって一瞬のうちにその仲間関係が全部壊れてしまうということである。こういう事があることを皆さんに承知しておいていただきたい。なお、スマホの所持につ

いては、当校での数年前の調査では、だいたい6割～7割くらいの生徒がスマホを持っていて、学年が上になるに従って割合が増えていくという結果が出ている。現在ではもっと持っているかもしれない。

飯塚委員（小学校長会）：

小学生における同様の問題を考えると、スマホではなくゲーム機を使った場合が多い。ゲーム機にも通信機能がありLINEのようなことができる。さらに、ゲームも色々な人とつながってできるようになっている。このことから、小学校でも情報モラルについてしっかり指導しなければならなくなっている。また、家に帰ってやる事については親に任せることになるので、親に対する啓発も大事だと思う。これ以外の問題として、小学校では自転車に関わる交通事故が重傷化、重大化した事案があった。昨年度ある小学校で、ローラーの付いた乗り物で自転車の後ろに付いて行った児童が、車と衝突し亡くなってしまったという事件があった。その後、市教委の判断で上越市ではローラーの付いた乗り物は道路では禁止、ということになった。今後もそういった子どもを見かけたら注意をしていただきたい。さらに、今年度に入ってから車と衝突して骨盤を骨折するという事故があった。このように事故が重傷化しているので、これからも繰り返し指導をしていきたいと考えている。

笠原代理委員（地域青少年育成会議協議会）：

地域青少年育成会議は22の中学校区を単位として構成されている。上越市から約一千万円のお金が交付されており、22の中学校区で、18歳未満の人口、小学校の数、中学校の数に応じて配分している。この会が発足して10年が終わり11年目に入った。そこで今年、10月の第2週の一週間を市内一斉あいさつ運動期間として取り組んだ。これについて、先ほど街頭指導の説明の中で、ジベタリアンに声をかけるとあいさつはよく返ってくるという話があった。私たちが10年間あいさつ運動に取り組んできた成果として、多くの子どもたちが人に声をかけられればあいさつを返す、という良い傾向が感じられてほっとしている。

岩片委員（青少年健全育成委員協議会）：

青少年健全育成委員として、高田駅前のジベタリアンの様子を見ている。

駅の待合室に人が大勢いるので、中に入らず歩道の縁石に腰をかけて話をしているようだ。その様子を青色パロール車での巡回の際に見て、気を付けて帰るようにと声をかけた。この子どもたちのように縁石に座っていることもジベタリアンと呼ぶのが適当なのだろうか。

事務局：先ほどから話に出ている事の中で、ジベタリアンや高校生の服装が少し緩んでいること、高校生のメイクがかなりひどくなっていること、今まで少なかったタバコの吸殻が目立つ日があること、などについて。これらの姿を結んでいくと、子どもたちの気持ちが少し緩んできていることの表れではないか、と感じてしまう。緊張感がなくなっていくと、色々な事故に結びつき、へたをすると集団での問題行動にまでつながってしまう。過去の経験からそういうケースが心配される。これらの事に対して、叱りつけるのではなく、目を離さない、という形をみんなで作ってあげれば、それ以上悪化はしないのではないかと考える。それを放っておくと、いつか結びつき大きくなってしまい、みんなで支援をしようとしてもなかなか受け付けられない状態になってしまう。そうならないように、みんなで目を離さないようにしていきたい。ぜひ、これに関する情報を交換し、未然に防いでいきたいと思う。何かあったらセンターや警察に情報を寄せていただきたい。

山本委員（上越警察署生活安全課）：

先ほどの話に関連して、SNSでわいせつな画像を友人に拡散させたという高校生の事案があった。それを捜査し被疑者を検挙した。また、関係する4つの高校について先生にお願いをし、動画を消させた。やはり拡散すると大変なことになる。先ほど話があったように家庭できちんと指導をしてもらいたいと思う。また、タバコについては、我々は街頭で補導すると必ず保護者に連絡をする。中には逆に陰でこそこそ吸って火事でも起こされては困ると考え、親が買い与えて堂々と吸わせているような例もある。その場合は親を被疑者として検挙している。中にはそういうケースもある。

田中委員：過去には中学生もタバコを吸っていて指導することがあったが、最近は値段が高いせいか中学生でタバコを吸っている姿を見なくなった。制約が多く買いつらくなったこともあると思う。

杉本委員（町内会長連絡協議会）：

高田駅では有職少年や高校を卒業したか中退したかという年代の若者が喫煙場所付近にいることを見かけることがある。しかし、制服が決まっていない学校もあるので、服装から高校生かどうかは見分けられない。また、バイクで駅前に乗り付けてくる若者をたまに見かけることもある。

次に、高校生の自転車通学について。高田本町通りの旧長崎屋前の交差点付近は自転車が大変通りにくい状況がある。二車線で来ている所に右折路線が加わるため三車線となり、信号で車が止まってしまうと自転車は通れない状態となる。そうすると大人も含めて雁木内の歩道に入ってきてしまう。降りて押して通れば問題はないのだが、実際には乗ったまま通っていることが多い。これに対しては注意しなければならないと思いながらも、現実的にはそういう状態を作り出してしまっているという面もある。これをどうすればよいのか検討する必要がある。

(4) その他

事務局：青少年健全育成委員の委員数の見直しについての経過報告

9 問合せ先

上越市青少年健全育成センター TEL：025-544-4690

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。